

令和 6 年度
伊藤光昌氏記念学術助成金募集要項

公益財団法人海洋化学研究所

令和6年度 伊藤光昌氏記念学術助成金募集要項 (研究助成・海外渡航助成)

海洋は、地球の生命にとって欠くことのできない存在です。その理由は、(1) 海洋は物質循環の主な舞台である、(2) 海洋は地球の気候を温和にする、(3) 海洋は生命の誕生と進化の起こった場所であるからです。このような海洋を研究する上で、化学はかけ替えのない情報を与えてくれます。海洋化学は、海洋の現在、過去、及び将来を研究し、地球と生命に関する私たちの理解を深める学問です。

本財団は、「海洋化学に関する研究、助成および奨励をなし、その発達を図る」ことを目的として、昭和21年4月4日に、わが国の海洋化学の創始者である京都大学名誉教授故石橋雅義先生により設立されました。平成24年4月1日一般財団法人に移行し、平成28年9月1日公益財団に移行しました。

伊藤光昌氏記念学術助成金は、当財団の評議員であられた、ハーモニック・ドライブ・システムズ株式会社代表取締役会長伊藤光昌氏から私財のご寄附を頂いたことにより開始された助成金です。

海洋化学の研究の発展に資するため、研究助成及び海外渡航助成を実施します。研究助成は、海洋化学に関する基礎研究及び応用研究を広く対象とします。海外渡航助成は、海洋化学の研究者を対象とし、海外の学会・シンポジウム等での発表、大学・研究機関での共同研究、海外での観測などのための海外渡航費を助成します。

研究者には、学生も含み、個人の他、グループによる応募も認めます。

本財団は、本助成事業により、大学や各種研究機関における海洋化学研究者のご活躍の一助となることを期待しております。ふるってご応募下さいますようにご案内申し上げます。

令和5年11月11日

公益財団法人海洋化学研究所
代表理事 宗林 由樹

募集要項

1 助成金の種類

- ア 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む）向けの研究助成。海洋化学に関する基礎研究及び応用研究を広く対象とします。以下、「研究助成」と言います。

金額 1件 150万円以下 年数件程度
※令和4年度実績:合計6件 総額602万円
※令和5年度実績:合計6件 総額602万円

- イ 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む）向けの海外の学会・シンポジウム等での発表、大学・研究機関での共同研究、海外での観測などのための海外渡航助成。以下、「海外渡航助成」と言います。

金額 1件 30万円以下 年数件程度
※令和4年度実績:合計1件 総額20万円
※令和5年度実績:合計2件 総額50万円

アとイを合わせて、令和6年度は600万円を見込みます。
※ただし、状況により、助成金額及び人数は調整します。

2 応募資格

海洋化学に関する研究者であること。
研究者には、学生も含み、個人の他、グループによる応募も認めます。
同一の研究又は渡航について、他の助成金等を受けていないこと。

3 募集期間

令和5年11月11日から令和6年2月2日まで。
ただし、海外渡航助成については、予算が許す限り随時受け付けます。

4 助成の対象

研究助成及び海外渡航助成は、ともに、海洋化学に関するものに限りま

5 助成期間

助成の実施期間は、原則として、支給決定から1年間（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）、又は、本財団指定の期間とします。

研究助成については、例外的に、2年又は3年にわたる研究の申請も受け付けますが、助成の採否は年度毎に決定しますので、2年目、3年目についてもその都度申請が必要です。

研究助成の交付後、出産・育児などに伴い申請書の計画通りに助成研究が進められないことが判明した場合、研究期間を最大1年間延長することがあります。

6 助成金の使途

助成の対象となる経費は、研究にあたり通常必要とされる費用及び渡航費とし、諸給与などの経費を除きます。ただし、研究のために臨時に雇入れた者に対する謝礼金は含みます。

本助成金は、原則として全額が助成対象者の研究のための直接経費として使用されるべきものであり、所属機関による間接経費のためのオーバーヘッドは助成額の5%を上限とします。

7 選考基準

ア 研究助成の選考基準は、海洋化学の分野で顕著な功績があったか否か、海洋化学の進歩に寄与する優れた研究であるか否か、または、さらに将来の発展が期待できるか否かとします。

応募を想定する研究分野としては、例えば、以下のものが挙げられます。しかし、挙げられたものに限りません。研究の自由の趣旨に鑑み、新たな、独創的な分野のものであっても構いません。

- (1) 現在の海洋の物質循環に関する研究
- (2) 海洋の生態系と化学成分の相互作用に関する研究
- (3) 固体地球と海洋化学の相互作用に関する研究
- (4) 化学に基づく古海洋の研究
- (5) 人類活動が海洋に及ぼす影響に関する化学的研究
- (6) その他、海洋化学の基礎および応用に関する研究

イ 海外渡航助成の選考基準は、上記研究助成の選考基準の他に、過去の渡航経験の有無及び回数、渡航しようとする学会・シンポジウム・大学・研究機関等の

水準、当該渡航により予定される具体的な活動内容（単に参加するだけでなく、どのような講演等を行うのか等）、及び、渡航により、海洋化学にどのようなインパクトを与えることができるかも加味して判断します。研究の自由の趣旨に鑑み、特に、渡航先には、限定を設けません。

8 選考方法

本財団に設置している選考委員会の選考結果に基づき、理事会で決定します。選考委員会のメンバーは、自らは応募できず、又は、自らが指導する学生の選考決議には参加しません。

現在の選考委員会のメンバーは、以下のとおりであり、計6名です。

加藤義久(東海大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

廣瀬勝己(元気象庁気象研究所地球化学研究部部長)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

9 選考結果の公表・通知

選考されたものは、本財団のホームページで公表し、個別に通知し、選考決定通知と助成金交付の書類を送付します。
選考されなかったものには、通知しません。

10 助成金応募申請手続

応募申請書の様式は、本財団の指定したものとします。

応募申請書様式を本財団のホームページ (<http://www.oceanochemistry.org/>) からダウンロードして、申請書を作成し、郵送又は電子メールで postmaster@oceanochemistry.org 宛て提出してください。
なお、提出書類等については、採否にかかわらず返却しません。

提出期限は、令和6年2月2日とします（必着）。
提出期限内に応募を受け付けたものについては、電子メールにて受取確認の通知をします。

1 1 経理処理

助成金を受けたものは、助成の趣旨に応じて、各自の責任にて、適切な経理処理（税金の取扱も含む）を行うものとします。

1 2 報告手続等

助成金を受けたものに対しては、助成金を受けることで成し遂げたことに関する、本財団指定の様式に基づく成果報告書及び収支報告書の提出を求めます。報告書は、選考委員会にて精査し、不十分なものについては、再提出を求めます。

なお、報告書が不提出や不適切な場合、及び、助成金の目的外使用が認められた場合は、助成金の返還を求めることがあります。また、悪質な事例については、公表することもあります。

1 3 問い合わせおよび申請書送付先

公益財団法人海洋化学研究所
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所内
Tel: 0774-38-3100
Fax: 0774-38-3099
電子メール postmaster@oceanchemistry.org

以上